

【プロジェクト名】 5000 キロの大航海「豚輸送作戦」～沖縄の戦後復興支援～

【研究目的】

- ① 沖縄の戦後復興支援である「豚輸送作戦」の埋もれた歴史を掘り起こすこと
- ② 調査を通して、「ウチナーンチュ（沖縄人）の絆」について考えること
- ③ 沖縄の戦後復興支援に着目し、その記憶を記録し、次世代へ残すこと

【結論】

「豚輸送作戦」は、沖縄戦の惨状を知ったハワイに住む沖縄系移民が故郷を思い、550頭の生きた豚を沖縄に送ったという戦後復興支援の一つである。本格的に調査を始める段階でわかっていたことは、この作戦は「7人の勇士」と呼ばれる人たちで遂行されたということだけだった。

調査は、豚を受けとった側である沖縄と、送った側であるハワイの両方で行った。まず沖縄の調査では、①ハワイから送られてきた豚で興した養豚業が70年近く経った今でも続いていること、②音楽劇で「豚輸送作戦」の記憶を若い世代に残そうとしていること、③ハワイへの感謝の意を込めた記念碑が建立されたことの3点がわかった。

一方ハワイでは、①「豚輸送作戦」の発案者である嘉数亀助氏の存在が明らかになり、②豚は「食料」としてではなく、復興の「道具」として送られていたこと、③豚の購入資金集めは、日本の敗戦を信じない「勝った組」と呼ばれる人たちに妨害されていたことの3点が明らかになった。

また、ハワイ取材では、多くの沖縄系移民の方と話す機会があった。彼らとは英語でも日本語でもなく、ウチナーグチ（沖縄の方言）で会話をするという不思議な体験をしたことで、私は日本人であると同時に、ウチナーンチュであるということも認識した。さらに、上京して忘れかけていた「沖縄への想い」を思い出すことができた。

最後に、取材成果は、ルポルタージュにまとめ、『中央評論』297（秋）号に掲載した。

【活動内容】

1) 当プロジェクトを始動するにあたり、以下の事前調査を行った。

2016年2～3月：沖縄県で関係者、並びに関連事業について取材

- ① 池宮城宏さん…豚輸送作戦で譲り受けた豚と地元の豚を交配させて養豚業を興した父を持つ

- ② 浜端良光さん…豚輸送作戦を題材にした音楽劇を 2003 年からプロデュースしている
- ③ 音楽劇「海はしる、豚物語」
- ④ 「海から豚がやってきた」記念碑除幕式

2) 事前調査に基づき、当プロジェクトではハワイでの聞き取り調査を行った。

2016 年 7 月：ハワイで豚輸送作戦関係者に取材

- ① メイ・オオシロさん…豚輸送作戦発案者、嘉数亀助氏の娘
- ② リリー・ホリオさん…豚を沖縄に輸送した「7人の勇士」の一人、宮里昌平氏の娘